

高い志のもと、日々“キラリ”と光る活動をしている人たちがいる。  
 “黄金の郷”“いわて平泉を支える、魅力溢れる”こしえるびと“のメッセージをシリーズで紹介していく。

## 全ての経験が自分の成長に

一関市舞川  
 渡邊 克洋さん



### 就農を決意

立春を過ぎたものの、春の足音がまだ遠い2月上旬。冷たい空気が張り詰める中、春の農作業に向け機械の整備を始める渡邊克洋さん。順調に作業が進められるようにと、準備に余念がない。長年勤めた大手電機メーカーの撤退を機に、他の工場への異動を考え、家族と話し合いを重ねた。そのとき、専業農家として米作りをしてきた両親から「農業を継いでほしい」と思いを告げられ、思い切っ就農を決断。就農への不安がなかったわけではない。就農して4年たっても「今はまだ勉強中」

と、農作業の合間に研修などへ積極的に足を運ぶ。

### 新たな挑戦

いろいろなことへ挑戦し経験を積みたいと、2017年から一般栽培が始まった県オリジナル水稲品種「金色の風」の栽培に取り組んだ。「新品种に挑戦したいと思っていた」と克洋さん。最高級の米作りのため、父や「金色の風」栽培研究会のメンバーと共にマニュアルを遵守しながら栽培。作りにくいとの前評判を気に掛けつつ食味を優先する栽培は手探り

の状態だったが、個々の栽培履歴など情報を共有したことが、参考になり張り合いとなった。「同じ目標に向かう仲間存在は大きかった」と、互いに切磋琢磨した1年を振り返る。

消費者に安全安心なコメを届けるため、研究会の仲間と共に国際的に通用する第三者認証「AS IAGAP(アジアギャップ)」の18年度内の取得を目指している。「消費者に安全安心なコメを自信をもって薦められるだけでなく、農場の改善にもつながる」と意欲的に取り組む。

### 経営の安定へ

就農以来、毎日続けているのは「作業日記」。「他のことまで長続き

したことはなかった」と自分で驚くほどまめに記録する。天候や作業内容のほか使用した資材なども書きとめているため、振り返りや分析に役立っている。さらに、就農してから申告を行うようになったことで、「経営状況が分からなければ改善も向上もできない」と経営の状況把握と分析の必要性も痛感。経営を安定させるためには、コスト削減が必要。資材の変更や購入量など、一つ一つ見直していくつもりだ。

「これからの農業情勢の変化に取り残されないように」、常にアンテナを張り巡らせながら担い手として成長を続けていく。—— 全ての経験が自分の成長につながると信じ、農業と向き合う。



私の一品

### 地図

車が趣味の克洋さん。時間を見つければ、地図で見つけた気になる場所や絶好のドライブポイントを求めて愛車で出掛けます。国道47号線の鳴子から酒田間は、季節を問わずお勧めの道です。

### PROFILE

渡邊 克洋さん (51)

Katsuhiro Watanabe

一関市舞川

1966年一関市舞川生まれ。一関農業高校を卒業後、大手電機メーカー勤務を経て2013年秋に就農。水稲12.6畝(受託4畝含む)、水稲育苗3500箱を手掛ける。妻と二人暮らし。

